

事例 71 住民の要望を受け民間事業者が運行するバス（桃花台バス：愛知県小牧市）

- ・ ニュータウンから鉄道駅や都心部へのアクセス性向上を目的としたバスを、住民と事業者が中心になり導入。

背景

- ・ 名古屋都市圏の桃花台ニュータウンでは、都心方面の鉄道へアクセスする交通手段として、新交通システムを整備。
- ・ その一方、アクセスする都心方面の鉄道の便が悪かったことや、ニュータウン内での交通手段までのアクセス性が悪いという問題が発生。

対応

- ・ 2001年11月に住民が「桃花台バス運営会」を結成。バス事業者（あおい交通）との協議及び試験運行（2002年4～9月）を経て、桃花台ニュータウン～JR春日井駅間での乗合バスの運行を2002年10月より開始。
- ・ バス事業者がニュータウン付近で運行しているスクールバスの空き時間等を有効活用しているため、自治体補助金や協賛金を必要とせず。

結果

- ・ 利用者数：約1.2万人/月（2007年4月）
- ・ 都心部へのアクセス時間が短くなり、かつ、運賃が安価なため、多くの住民に利用されている。
- ・ バス運行の無い深夜帯における乗合タクシー（ミゴン）の開設等、事業者の創意工夫によりサービス向上が図られた。

2006年10月に廃止。

（愛知県小牧市環境交通部交通防犯課）

